



説明する高橋教授



双眼鏡で水鳥を観察する参加者

長大・里山再生学ゼミが「水鳥観察会」 2月に完成の可動式看板のお披露目も…

上田市

上田市の長野大学環境
シリーズム学部・里山再
生学ゼミ(高橋一秋教
授)はこのほど、市内平
塚の舌喰池で水鳥観察会
を実施。本年2月に完成
した、可動式看板「舌喰
池で観察される鳥類」
(横2枚×縦1枚)をお
披露し、説明した。
長大では上田市と連携
し、「信州上田学事業」
を推進。看板はその一環
として同ゼミが平成27年
から調査・研究を行って
きた、塩田平ため池群を

利用する水鳥の調査・研
究をまとめたもの。
舌喰池は池と植生の面
積が広く、水鳥の種が多
いことに着目、季節ごと
に観察される水鳥のイラス
トや特徴、水量や植生の
管理が種の多様性にもた
らす効果などを記した。
この日は、調査研究に
協力した塩田平のため池
を愛する会・大口義明会
長はじめ、手塚自治会の
役員ら12人が参加。ゼミ
生2年の三枝広樹さん
(20)が「繁殖期」の水
鳥について説明し、高橋
教授は「今日は12種の水
鳥が確認できる。餌は
様々で多くの鳥が来ると

いうことは、餌としてい
るものが豊富な証拠」と
した。
同ゼミが用意した双眼
鏡を覗きながら、大口会
長(78)は取材に「水鳥
のいることは知っていた
が、名前までは知らな
かった。ため池には自然が
ある。大事にしていかな
ければいけない」と、高
橋教授は「他のため池に
も水鳥の繁殖地となるよ
うな植生を進め、地域と
水鳥の共存を考えてい
きたい」と話した。